第８回陸前高田市津波避難計画策定アドバイザリー会議
議事要旨

○　開催日時　令和７年１２月２２日（月）午後２時００分から午後５時５０分まで
○　開催場所　陸前高田市消防防災センター２階　防災研修室
○　出席委員　牛山素行委員長、加藤孝明委員、関谷直也委員
　　中村吉雄委員、福留邦洋委員
○　配布資料
　資料１　　青森県東方沖の地震に伴う津波警報及び北海道・三陸沖後発地震注意情報への対応について

○　経過概要

１　事務局より、次第の２　青森県東方沖の地震に伴う津波警報及び北海道・三陸沖後発地震注意情報への対応について説明を行った。

２　議事３⑴津波避難シミュレーションの経過報告について、加藤委員から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。主な意見は、次のとおりである。

⑴　説明内容概要

ア　前回会議における検討事項と追加検証について
イ　自動車避難シミュレーションの実施概要について
ウ　現段階における避難計画案について
エ　追加シミュレーションについて

⑵　委員による主な意見

ア　高田松原運動公園について

・　イベントの主催者や施設管理者側が、車避難をせずに、徒歩で避難するよう誘導することをマニュアル化する必要がある。
・　イベント開催時に臨時駐車場を使用する場合においては、ここは車避難をしないように呼びかけることを前提として使用を許可することも考えられる。
・　リスクゼロを目指すのであれば、定員規制をするしかないが、それを行うのは現実的に難しいのであれば、大きなイベントを開催するためには、一定のリスクを織り込む必要がある。
・　野球場内から避難する際に、群衆が詰まって歩行速度が落ちる可能性がある。野球場を出る時に、ある程度人流が絞られるため、歩道で密度が高くなって詰まるということは可能性としては高くないのではないか。
・　夢アリーナたかたに向かう徒歩避難者の横断により、車両の通行が阻害される懸念があるため、横断をさせないよう誘導する必要がある。
・　高田高等学校に徒歩で上がることができる避難路を作っておけば、避難場所としてさらに効果的に使えるのではないか。

イ　高田松原海水浴場について

・　シミュレーションを実施して、避難路を拡幅するために、どの部分の松を抜く必要があるのかを示して関係機関へ協議をする必要がある。

・　Ｌ１津波だと、地震発生から10分、15分で津波が到達する可能性があるため、それまでに防潮堤を越えていなくてはいけない。Ｌ１対策も必要である。

・　駐車場までの距離というよりも、通路の本数や幅の改善が必要ではないか。

・　夏場だけ階段を付けるのであれば、工事現場などでも使われる、仮設の階段を設置する方法もあるのではないか。

・　高田松原海水浴場からは車、サッカー場からは徒歩というように、その場所によって決めたほうが良い。あまり話を複雑にしない方がよい。

ウ　まとめ

・　施設管理者や関係者が講ずべき必要な施策・対応事項を整理する。

・　野球場や祈念公園等の施設においては、施設管理者やイベント主催者が来場者に対し適切な避難誘導を行うことを基本とし、海水浴場においては掲示物等による周知が必要。

・　海岸部全体としては、避難方向や手段を明示する各種表示の整備が重要となる。なお、人的誘導が特に重要となるのは夢アリーナである。

・　歩行者避難が自動車避難の支障となり、全体の避難時間を延ばす傾向が多く見られた。

　このため、施設管理者側の留意点としては、自動車で避難する人は自動車で確実に避難させる一方、歩行者についても適切な誘導や受け入れ体制を整えることが重要である。

・　復興祈念公園の駐車場出口で渋滞が発生した場合、そこで自動車避難を断念し、徒歩での避難に切り替える人が一定数生じると考えられる。特に満車に近い状態では、出口での滞留を目の当たりにした若年層を中心に、「走った方が早い」「歩いた方が早い」と判断し、自主的に徒歩避難へ移行するケースが想定される。

　本来であれば、出口から円滑に車両が退出することが理想であるが、実際には歩行者をゼロに抑えることは難しく、一定数の歩行者の発生は避けられないと考えられる。

　したがって、このような徒歩避難者の発生が、全体の避難シミュレーション結果にどのような影響を及ぼすのか、検討が必要である。

・　まちなか駐車場からは、徒歩で本丸公園とするならば、階段等の避難路について、拡幅等の対応が必要になるのではないか。

３　事務局から、今後のスケジュールについて説明を行った。